



☆☆ ☆特集記事



◆◇◆人中心の道路へ・御堂筋の道路空間再編用へ◆◇◆

～“御堂筋チャレンジ 2021”ほこみち制度の活

(大阪市 建設局 企画部 企画課 道路空間再編担当)

近年、道路へは、単なる“通行する空間”のみではなく、“憩い・滞留する空間”としてのニーズが高まっており、昨今の新型コロナウイルスの拡大により、一層オープンエアな公共空間への注目が高まっている。

本稿では、都市の活性化を図る道路となるべく、“車中心の道路”から“人中心の道路”へと空間再編を進めている御堂筋の取り組みについて紹介する。



☆☆ ☆訴訟事例紹介



◆◇◆路肩又は側帯を示す表示がない道路を走行中、進路方向左端の窪みを走行したことにより、道路左端コンクリートに衝突し、車両が損傷した事故について、国家賠償法2条1項に基づき損害賠償請求等がなされた事例◆◇◆

(令和元年5月7日岩国簡易裁判所判決)

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

本件は、原告が自動車で路肩又は側帯を示す表示がない道路を走行中、対向車とすれ違うために進路方向左端の窪みを走行したことにより、道路に露出していたコンクリート壁に衝突し、車両が損傷した事故について、窪みが補修されていなかったこと等は道理管理上の瑕疵に当たるとして、道路管理者に対し、国家賠償法2条1項に基づき損害賠償請求等がなされた事例（令和元年5月7日岩国簡易裁判所判決）

【判決要旨】

争点1

- ・道路の地面部分が緩やかな斜面になっていることや原告の走行状況から、原告車左前輪が窪みに落ち、その後同窪みから脱出する際に露出していたコンクリート壁に衝突したことは認められる。

争点2

- ・本件道路には、道路の路肩又は側帯を示す表示はなく、本件窪みが路肩部分又はその外側に存在すると認めることはできない。
- ・歩道等がない道路で、その路肩の表示が明らかでない場合であっても、自動車は、路端から車道寄りの 50cm の部分にはみ出してはならないが、本件窪みの一部は、道路の路端から車道寄りの 50cm の範囲に含まれていたことは認められる。
- ・本件窪みの全体が路端から 50cm の範囲に含まれていたとまでは認められず、必ずしも本件事故時における原告車の走行が車両制限令 9 条に違反した走行であるとまでは断定できない。
- ・仮に本件窪みが路端から 50cm の範囲に入る部分があるとしても、離合時などに臨時的にやむを得ず路肩を走行すること自体までを禁上しているとは解されない。
- ・道路管理者は、当該道路の構造、交通量、使用状況等の具体的状況に応じて、路肩部分又は路端から 50cm の範囲の部分も自動車が安全に進行できるように管理すべき場合もあり、窪みが存在する本件道路は、通常有すべき安全性を欠くものと認められ、道路管理者の瑕疵が認められる。
- ・窪みの大きさや道路の状況から、原告運転者は、進路左側部分の安全を確認しながら進行すべき注意義務を怠ったことが認められ、原告の過失として過失相殺すべきである。



☆☆ ☆TOPICS ○○○。.. ○○○。



◆◆◆『防災・減災対策等強化事業推進費』◆◆◆

～年度途中に緊急的かつ機動的に予算を配分～

(国土交通省 国土政策局 広域地方政策課 調整室)

防災・減災対策等強化事業推進費は、年度当初に予算計上されていない公共事業に対して、緊急的かつ機動的に予算を配分し、防災・減災対策等を実施するものであり、「災害対策事業」、「公共交通安全対策事業」、「事前防災対策事業」に活用できます。

令和4年度の募集にあたり、概要、募集スケジュール、活用事例を紹介します。



☆☆ ☆高速道路会社の取り組み



◆◆◆中継物流拠点「コネクトエリア浜松」による物流業界の働き方改革支援◆◆◆

(中日本高速道路株式会社 事業開発・推進本部 事業創造部 新事業開発課)

2018年9月、中日本高速道路(株)は長距離トラックドライバーの労働環境改善に資する取組みとして高速道路会社初の中継物流拠点「コネクトエリア浜松」を開業した。東京～大阪の中間に位置し、日帰り運行による負担軽減、輸送効率化、確実な駐車等が期待される。本稿では事業概要と利用者ヒアリングの結果など紹介する。



☆☆ ☆地域における道路行政に関する取組み事例



★道の駅「許田」リニューアルについて★°・*:.。

(沖縄総合事務局 開発建設部 道路管理課)

道の駅「許田」は平成6年に沖縄県で最初の道の駅として登録され、沖縄本島を縦断する国道58号の名護市に位置することで、沖縄自動車道北端の許田ICに近接する北部地域観光のゲートウェイとなっており、これまで多くの観光客が立ち寄り賑わいのある駅となっています。一方で、特に夏季の観光シーズンには激しい渋滞の発生、駐車場不足、追突事故が発生するなどの課題があったことから、道の駅をリニューアルすることとなりました。本稿では、事業の経緯、リニューアル整備内容等についてご紹介します。



★岩手県の復興道路★°・*:.。

～三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって更に前に進む。～

(岩手県 県土整備部 道路建設課)

国の復興のリーディングプロジェクトとして整備が進められてきた「復興道路」が令和3年12月に全線開通し、時間短縮や安全性の向上など様々な効果が発揮されています。岩手県内における復興道路の整備の歩みと開通による整備効果をご紹介します。



★平泉スマートICの整備について★°・

(岩手県 平泉町 建設水道課)

平泉町では、観光業の振興と地域産業の活性化などにおいて重要な役割を担うものとして、平成26年に事業を開始し、並行して連結道路である町道祇園線の整備を行い、事業化から約7年の令和3年12月4日に岩手県内では4番目となる平泉スマートインターチェンジが開通しました。本稿では、平泉スマートICの整備及び効果等についてご紹介します。



☆☆ ☆編集後記



腰痛を機に、通勤用のバッグをリュックに変えました。それまでは、いわゆるトートバッグと呼ばれるものを利用しており、大きいので自然と入れるものも増え、けっこうな重さのものを毎日持ち歩いていました。そして、11年前、最寄り駅まで利用していた電車が、震災の影響を受けて運休となり、数か月間ではありましたが、これまでより長い距離を歩くことになりました。この間、重いバッグを肩にかけて歩き続けたことが、腰を痛めた原因となりました。

数年使い続けているリュック。とても使い勝手が良く、デザインも気に入っていたのですが、ファスナー部分が壊れてしまいました。そこで、従前利用していた大きめのトートバッグの出番が再びやってきました。しかしながら、わずか1日で腰への負担が大きいことがわかり、使うことを諦めました。

リュックは両肩で荷物の重量を支えることから、身体の歪みが出にくいと言われていきます。わたしたちの身体は、背骨と骨盤が軸となり、動作による筋肉の収縮で、骨が正常な位置に戻り、バランスが保たれるようにできています。しかし、重いものを長時間持つなどの筋肉への過剰な負担や、同じ姿勢で居続けることなどによって筋肉の硬直が起こると、背骨や骨盤が傾き、身体に歪みが生じてしまいます。この身体の歪みは、腰痛のほか、肩こり、胃もたれや、冷え性など、様々な不調の要因になりえます。

通勤時、あたりを見回してみると、リュックを背負っている人が多くなった印象を受けます。スーツにリュックは、服装マナーの観点からは、失礼に当たるという考え方もあるようですが、違和感のないデザインのもが増えてきたこともあり、個人的には、既に市民権を得ているのではないかと感じています。いつ頃から「スーツにリュック」が増えてきたのかを調べてみると、11年前の震災の際、長時間歩いて帰ったことを教訓として、利用し始めた人が多いようでした。また、自転車通勤が契機となったり、スマートフォンの操作がしやすいという理由も見受けられました。一方で、リュックより、手提げバッグ(肩に掛けない)が、身体への負担が少ないという意見もありました。通勤には、どんなバッグが良いのか悩んでしまいますが、中身を減らすことを考えるとともに、壊れたファスナーの修理を依頼しようと思っています。(U)